

[水道橋] 世界一高い水道橋は制震構造 スペイン・メリダ 古代ローマの水道橋



↑メリダの水道橋 全景 手前に鉄道が走っている。細いレールが不安だ

古代ローマ軍団の駐屯基地はヨーロッパ中にあり、いずれも現代の都市として生きている。

基地は都市計画を入念に行い、インフラ整備は完璧だ。温泉が好きで衛生観念の発達していたローマ人は、上下水道の整備に力を注いだ。水源を見つけると距離をいとわず山を穿って水を町まで運ぶ。谷にはこうした橋（水道橋）を掛けた。頂上を走る水路の勾配はなんと1/1000である。これで十分に水が走る。しかし水勾配が緩いということは水路の底面を常に平滑にしておかないと水が流れなくなるといことにつながる。

↓柱のディテール レンガが挟み込まれているのがとくわかる。柱を繋ぐアーチもレンガ作りである



ヨーロッパ大陸は太古の昔はテイティス海と呼ぶ浅い海で、それが隆起して陸になった。当時の海に生息していた貝は水成岩として固まり石灰岩となる。だからヨーロッパの台地は石灰岩の宝庫で湧き水も石灰分が多い。ところでこの水を飲み続けていると、中年になると血管に石灰質が溜まって体のあちこちにこぶがができる。これが怖いので彼らは水の代わりにワインを飲むのだ。元々体質的にアルコールに強いので平気のようなが、日本人は朝からワイン漬けに合うと仕事にならない。話を戻すと水道橋も同じで、流れる水の石灰質が溝の底にこびりついてでこぼこにしてしまう。勾配が緩いので平らに削り落とすメンテナンスが大切なのだ。これができなくなると邦が減ぶ。

ローマ人は土木の天才だ。アーチも彼らが発明した。現存する最大の高さを誇ることでこの橋は有名なのだが、2千年も自立しているのは石灰岩で柱を積み上げるだけではなく、レンガを間に挟んでいるからだ。これが制震効果（クッション）を果たしているのだという。

メリダはスペイン南西部に位置した小都市。神殿や劇場などの古代ローマの遺跡が随所にある。北に行くと同じく古代ローマの軍団基地カセレスが近く、南にシエラ・モレナ山脈を越えるとセビリアに至る。ここはエストレ

マドゥーラ州に属し、どんぐりだけを餌にして飼育されるイベリコ豚の原産地だ。通常ハムは薫煙で燻すが生ハムは冷温乾燥で作る。イベリコ豚はこの地方の天候が幸いして、個人の店では天井裏にぶら下げて乾燥するだけで作る。食すれば堪えられない美味しさである。